

March 3, 2020

【前日の為替概況】ダウ平均過去最大の上げ幅で、ドル円 107.40 円付近から 108.47 円付近へ

2日のニューヨーク外国為替市場でユーロドルは3日続伸。終値は1.1129ドルと前営業日NY終値(1.1026ドル)と比べて0.0103ドル程度のユーロ高水準。パウエルFRB議長は前週末、緊急声明を発表し追加利下げの可能性を示唆。シカゴ・マーカントイル取引所(CME)が金利先物から市場の利下げ予想の確率を算出する「Fedウォッチ」では、今月の米連邦公開市場委員会(FOMC)での0.50%の利下げを完全に織り込んだほか、7月までにさらに0.50%の利下げが見込まれている。米大幅利下げ観測を背景にユーロ買い・ドル売りが優勢となり、1.1185ドルまで上昇した。しかし、一時は1.0283%と過去最低水準を付けた米10年債利回りが上昇に転じたことなどが相場の重しとなり、1.1124ドル付近まで反落した。

ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁は取引終了間際に新型コロナウイルスの感染拡大に対して「必要かつリスクに応じて、適切で目標を絞った措置を取る用意がある」との声明を公表した。

ドル円は3営業日ぶりに反発。終値は108.33円と前営業日NY終値(108.05円)と比べて28銭程度のドル高水準。米大幅利下げ観測を背景に全般ドル売りが先行したほか、2月米ISM製造業景気指数が50.1と予想の50.5を若干下回ったことが相場の重しとなり一時107.40円付近まで値を下げた。

ただ、売り一巡後は買い戻しが優勢に。「先進7カ国(G7)財務相・中央銀行総裁は3日に新型コロナウイルス対策で電話会議を行う予定」と伝わったほか、国際通貨基金(IMF)と世界銀行が共同声明を発表し「新型コロナウイルスの急速な感染拡大で影響を受けた国・地域に対して支援する用意」と表明。引けにかけてダウ平均が1290ドル超上昇し過去最大の上げ幅を記録すると、ドル円にも買い戻しが入り108.47円付近まで値を上げた。

ユーロ円は反発。終値は120.55円と前営業日NY終値(119.13円)と比べて1円42銭程度のユーロ高水準。主要中央銀行が協調して金融緩和に動くとの期待に背景に米国株が急騰すると投資家のリスク回避姿勢が和らぎ円売り・ユーロ買いが優勢となった。6時前に一時120.75円と日通し高値を更新した。

【本日の東京為替見通し】ドル円、G7協調の財政出動・金融緩和への期待感から堅調推移か

本日の東京市場のドル円は、本日日本時間午後9時に開催予定のG7財務相・中央銀行総裁による緊急電話会合を受けて、明日3月4日に噂されているG7・10中央銀行による協調利下げ・金融緩和の思惑から底堅い展開が予想される。

ドル円のテクニカル分析では、200日移動平均線の108.40円を下回って引けていること、2月28日の大陰線の実体部の中心値108.82円を下回っていることで「差し込み線」による戻りに過ぎないと見なされ、本日の注目水準となる。

2月28日にパウエルFRB議長が「適切に行動」すると利下げを示唆し、3月2日には黒田日銀総裁が総裁談話で「市場の安定確保」を表明し、3月3-16日の5000億円の国債買い現先オペを断行し、過去最大の指数連動型上場投資信託(ETF)買い(1014億円)を断行した。買い現先なので、本日5000億円の国債買い・資金供給、16日は国債売り戻し・資金吸収となるため、緊急避難的な臨時的流動性供給だった。

ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁も「適切な行動をとる」と述べており、G7中銀による協調利下げ観測が高まっている。

3月17-18日の米連邦公開市場委員会(FOMC)では、▲0.25%~▲0.50%の利下げが予想されているが、一部市場筋の見解では、明日4日に▲0.50%の利下げが断行され、欧州中央銀行(ECB)、日銀、イングランド銀行、カナダ銀行(BOC)、NZ準備銀行(RBNZ)も利下げ・金融緩和策を打ち出す、とのことである。

本日のオーストラリア準備銀行(RBA)の金融政策は、市場予想では据え置きとなっているものの、政策金利0.75%を0.25%引き下げて0.50%とするとの予想もあり要注目か。

G7の協調的な金融緩和・財政出動への期待感から、昨日の日経平均株価は+201.12円(+0.95%)、ダウ平均は過去最大の上げ幅(+1293.96ドル・+5.09%)を記録している。

懸念材料としては、サブプライム金融危機に対峙した米連邦準備理事会(FRB)のFF金利は5.25%、バランスシートは9000億ドル前後だったことで、FF金利はゼロまで低下させ、バランスシートは4.5兆ドル超まで拡大させられた。今回の新型コロナウイルスに対する戦いは、FF金利は1.50-1.75%、バランスシートは4.1兆ドルなので、リバーサル・レート懸念もあり、弾薬は限られているという点になる。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:50 ◇ 2月マネタリーベース
- 14:00 ◇ 2月消費動向調査（消費者態度指数 一般世帯、予想：38.1）

<海外>

- 09:30 ◎ 1月豪住宅建設許可件数（予想：前月比1.0%/前年同月比2.4%）
- 09:30 ◇ 10-12月期豪經常収支（予想：23億豪ドルの黒字）
- 12:30 ☆ 豪準備銀行（RBA）政策金利発表（予想：0.75%で据え置き）
- 15:45 ◎ 10-12月期スイス国内総生産（GDP、予想：前期比0.2%/前年比1.3%）
- 16:00 ◎ 2月トルコ消費者物価指数（CPI、予想：前月比0.65%/前年比12.70%）
- 16:45 ◇ 1月仏財政収支
- 18:30 ◎ 10-12月期南アフリカ国内総生産（GDP、予想：前期比年率▲0.1%/前年同期比▲0.1%）
- 18:30 ◎ 2月英建設業購買担当者景気指数（PMI、予想：48.8）
- 19:00 ◎ 1月ユーロ圏卸売物価指数（PPI、予想：前月比0.5%/前年比▲0.5%）
- 19:00 ☆ 2月ユーロ圏HICP速報値（予想：前年比1.2%）
- 19:00 ☆ 2月ユーロ圏HICPコア速報値（予想：前年比1.2%）
- 19:00 ◎ 1月ユーロ圏失業率（予想：7.4%）
- 19:00 ◎ ホルツマン・オーストリア中銀総裁、講演
- 4日 04:50 ◎ メスター米クリーブランド連銀総裁、講演
- 米大統領選スーパーチューズデー
- 主要7カ国（G7）財務相・中央銀行総裁緊急電話会議

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

【前日までの要人発言】

2日 09:09 安倍首相

「緊急事態宣言も可能となる立法措置を進める」
「緊急対策第2弾は10日を目途に速やかにまとめる」

2日 09:54 黒田日銀総裁

「潤沢な資金供給と金融市場の安定確保に努めていく方針」
「新型コロナウイルス拡大、市場で不安定な動きが続いている」

2日 15:13 トルコ資本市場委員会

「株式市場の空売り規制は追って通知があるまで継続」

2日 16:26 ビルワドガロー仏中銀総裁

「新型肺炎の感染拡大の継続が経済への影響にとって主要な問題」
「ウイルスに対する冷静な対応が必要」
「新型肺炎の感染前の欧米諸国は安定していた」

2日 16:35 ルメール仏財務相

「新型肺炎に伴う経済成長への影響を抑えるために G7 は今週電話会談を行う予定」

2日 17:09 英中銀(BOE)

「安定確保のため、あらゆる措置を講じる予定」

2日 21:21 ペンス米副大統領

「もっと多くのコロナウイルスの感染を予測」

2日 21:35 トランプ米大統領

「今日ホワイトハウスで大手製薬会社とワクチンと治療法の進展について話し合う。前進している！」

3日 00:19

「いつも通りパウエル議長とFRBの行動は遅い」
「最も低い金利にするべき」

2日 21:44 デギンドス欧州中央銀行(ECB)副総裁

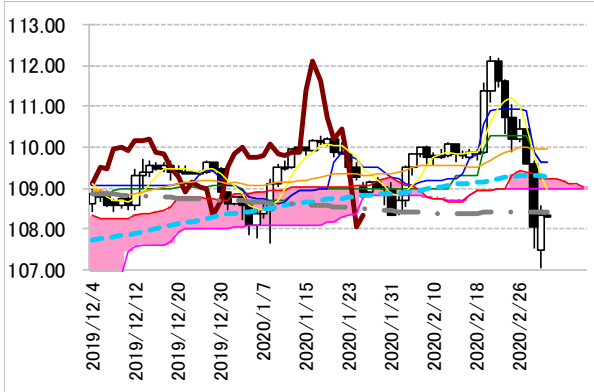
「インフレを守るためにあらゆる手段を講じる用意がある」
「コロナウイルスは世界や欧州経済に不確実性を増加させた」
「我々は依然として慎重で経済データを注視する」

3日 06:31 欧州中央銀行(ECB)

「新型コロナウイルスの急速な拡大、経済見通しや金融市場の機能にとってリスク」
「必要かつリスクに応じて、適切で目標を絞った措置を取る用意」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕



<ドル円=雲の下限を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線は同値、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、売りシグナルが優勢な展開。毛抜き天井(112.23円・112.19円)から107.01円まで下落後、陽線で切り返したものの「差し込み線」(※28日の大陰線の中心値以下で引け)となり、反落の可能性が示唆されている。

本日は、雲の下限を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

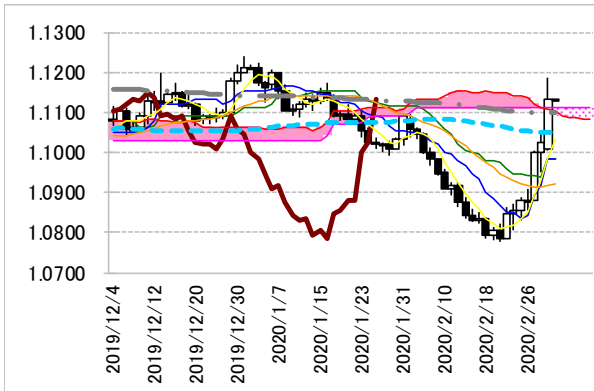
レジスタンス2 109.24(日足一目均衡表・雲の上限)

レジスタンス1 108.97(日足一目均衡表・雲の下限)

前日終値 108.33

サポート1 107.01(3/2安値)

サポート2 106.48(2019/10/3安値)



<ユーロドル=基準線・転換線を支持に押し目買いスタンス>

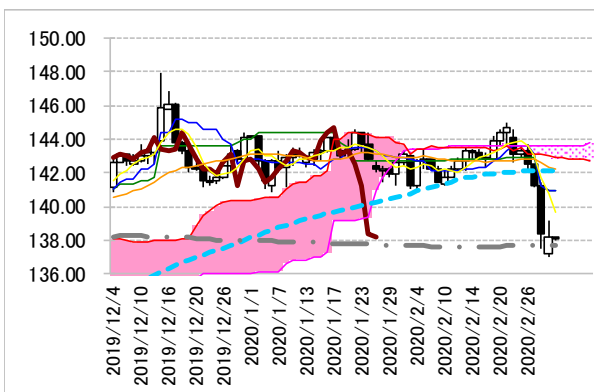
陽線引け。一目・転換線は一目・基準線と同値、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲を上抜けて引けていることで、買いシグナルが優勢な展開。2017年4月の窓(1.0738ドル・1.0821ドル)を埋められず、陽線新高値6手で反発しており、続伸の可能性が示唆されている。

本日は、基準線=転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1 1.1239(2019/12/31高値)

前日終値 1.1134

サポート1 1.0982(日足一目均衡表・基準線=転換線)



<ポンド円=3/2高値を抵抗に戻り売りスタンス>

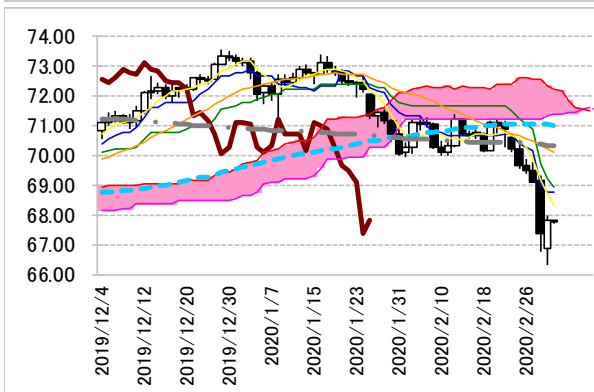
陽線引け。一目・転換線は一目・基準線と同値、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、売りシグナルが優勢な展開となっている。陽線で切り返したものの、2月28日の陰線に届かず、基準線と転換線を下回っていることで、反落の可能性が示唆されている。

本日は、3月2日高値を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同水準を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1 139.19(3/2高値)

前日終値 138.17

サポート1 137.53(2/28安値)



<NZドル円=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯。陽線で切り返したものの「差し込み線」となり、反落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1 68.75(日足一目均衡表・転換線)

前日終値 67.82

サポート1 66.76(2/28安値)

